



## “雨とサツマイモ”

園長 高杉 洋史

昨年の七月はちっとも雨が降らず、畑はカラカラでサツマイモの苗を二度も三度も植えかえました。今年には打って変わって連日の大雨で、サツマイモにはよかったです。大きな被害が出た地域の皆様はじめ、私たちも自然の怖さを目の当たりにしました。

七月十日月曜日は午前一時半ごろから雷鳴を伴う大雨で、避難警報が発令され、眠れない一夜を過ごしました。

明け方まで気象庁の雨雲の動きのホームページにらめっこして、午前八時には雨雲が遠ざかると判断して幼稚園はいつも通りの保育に決めました。

しかし一部地域の道路は冠水し、スクールのバスバス停まで集合できなかつた保護者の皆様にはご迷惑をおかけしました。

職員からの電話対応など、スムーズな運行へのご協力大変ありがとうございました。

さて、次は運動会の季節がやってきます。この開催は天気により、最も判断に悩むことが多いのですが、今回は幸いにも八時三十分にはしだいに雨雲が遠ざかってくれましたが、肝を冷やした一日でしたので、更に慎重に判断していきます。

冠水した地域もあったこともあり、今後は、大雨の場合も、園児の安全を第一に、自主登園にさせていた場合があることをお願いしつつ、次回の反省材料にしています。

大雨の後は三十度越えの日々が続いています。サツマイモの葉はみずみずしく、蔓も順調に伸びています。一方ジャガイモ畑は六月と七月上旬の雨と、おまけに今回の大雨で溺れてしまったかもしれませぬ。畑の水が引いたら恐る恐る掘ってみます。

コンピュータの世の中とか人工知能の世の中とか言われていますが、自然から「地に足を付けた幼児教育をしなさい」と忠告された思いがする今日この頃です。

自然から学ぶことは、深く大きいものです。

# ミセスカレッジ 子育て講座より



教頭 高杉 美稚子



四年ぶりに実施した、「ミセスカレッジ」子育て講座「**ありがたいことには、とても好評で、受けたかったけれど、仕事や家の都合で受けられなかったという言葉を多く聞き、とても嬉しく感じています。**」

そこで、今月と来月号では、「ミセスカレッジ」の実際に体験して頂くワークや映像（実はこれが一番感性に響くので学びになるのですが）以外の言葉でお伝えした部分だけ掲載し、お伝えしようと思えます。人間関係はまずは挨拶からです。

**人間関係と挨拶を表すボールのワークからスタートしました。**

まずは、年齢や場合に応じた挨拶、言葉かけの仕方をボールの大きさや形、材質を変えて体験していただきます。

そのついで、挨拶や言葉かけで、毎日の生活の中で、**何げなく、受け止め、受け止められて、感謝されて、励ましの言葉をもらえた子どもは「やれば出来る」となせたか分からない自信が根底にできて、「よく、やってみよう」と思えることが出来ます。自己肯定感が芽生えます。幼い頃の多くの小さな成功体験が大切です。**

**その実現のためには、我が子がかわいいあまり貴重な体験を先に先に奪わないことです。**

**貴重な体験を先に先に奪うとは**

例えば、「戸を開けるといついつかの行動を学びたい許可をあげる」ことが出来ない場合など



● けがしたらいけないから

いつも開けてあげる→これは過保護

● 危ないからやめなさい→命令・過干涉

● もっと上手に出来るはず→過期期待・押し付け  
できないため→否定

● あげくに罰もつけ、いつもなんだから

→過去を忘れない

● しばらく→過放任

● 何度してもやめる→許可の与えすぎ、甘やかす  
となります。だから

**つてみせる。やらせてみる。できなかったらやり方を教える。一緒にやってみようが大事です。**

私が小学生の時、父がいつも夏休みの自由研究と一緒にしてくれました。押し花、虫の採集、珍しい石ころ採集、吹き絵、ステンドグラス、日本地図の作成、本箱の工作など次々に思い出し、今でも心に残っています。今では、一つ一つが心の原風景となり、良い思い出となっていますが、嫌な思いをしたこともありました。

本箱を学校に持っていった時の事・・・今も形も鮮明に覚えています。4年生の時、その年齢にしてはとても出来が良かったのでしょっか・・・友達から「お父さんに作ってもらった作品やん、自分で作ってない」とはやし立てられ、泣いて帰ったことがありました。

その時、父は、慰めるわけでもなく、にっこり笑ってこう言ったのです「それでいいんだよ。小学生の自由研究は、親と一緒に時間を共にすることが大事なんだよ。だから大丈夫。一緒に作ったと言って、明日も

「一度持っているものを」

「でも、安心して、心強く感じたことを多くも覚えておきます。そして「正直に、一緒に作って」を伝える。誰も何も言いませんでした。

だから、心強く感じ、何かをやるというところが本当に大事だと思います。「時間の共有体験」という財産こそが一番の成長への励みの宝物です。

幼稚園の夏休みの製作はもう、共に同じ場所について、時間を共有するところが大切です。

「時間共有の大切さ」

「やってみて、聞いてみる、やってみて」

「書いたらね、人は動かない」

「日本五十六年の言葉です」

★「この書を感づいた瞬間（大型液晶で親子の動物の）」

「赤い色の写真のみました」

まず、最初にこの映像を見られた方は命の大切さ、我が子が生まれてきてくれた有難さ、親子の情愛、絆、この感じ、ただ「思う」です。

その前に一番大切な事、感じただただ「思う」は、この子が「思う」を「感じる」、ただ「思う」です。

私の両親は共に教師をやっていて、子どもに恵まれたなかったので、人様のお子様を育てようとして幼稚園を始めました。

初めての年、母は母の調子が悪く病院を受診したところ、お母の私がお腹の中だったのです。自動車はまだ普及していない時代、父のオートバイの後ろに乗って、普通「病院を受診」したのです。

そして、妊娠発覚。父四十五歳、母四十二歳の時で

した。だから幼稚園を大切にしなければ、一生懸命幼児教育「何へ」この幼稚園の基礎を築いてくれることだ。

そして「私も、」我が子が産まれなかったらこんな幼稚園は発展していかないでしょう」といふこと。

幼稚園と私「感謝」してあげました。



我が子がいるという幸せ、これ以上に親子の繋がりをとくれないものはありません。我が子が生まれてきた、子どもを持つことが出来ただけが幼稚園に集まるのです。今日この日は、我が子が出来るのです。感謝ですね。我が子があらがっています。今日この日は、我が子が出来た自分にも感謝ですね。

私はもう、朝起きて「おはよう、生きていた、それだけであらう」と思っています。

他には「おはよう」を感じられたらどうでしょうか。そして自分の気持ちに触れてあげて。そして、それらの皆様が心に感じられたことを大切にしてください。

同じものを見ても、同じ人の話を聞いても、同じ事象に出会っても、人の伝え方は様々です。ネガティブに受けとる落ち込むか、そこから学ぶで立ち上がるかは、自分次第です。

今までも自分で決めたことなかった人の場合、自己決断が出来ず、自分が決めた事には自信が持てないから全部他の人に決めてもらい、なんでも悪い所だけ捉えて見つけて、「あなたが悪い」と全部人のせいにしてしまっている人があつた。

自分に責任を取らないことで、他人は自分の思い通りにならないから、更「自分」に縛られるようになる。そこから、一歩抜け出して、だから「自分」を見つけて、置かれた場所で精いっぱい咲くか、選ぶのも決めるのも自分です。

素敵なことが起ると思っている必要はないです。自分が素敵な所はかき見つけるからです。そして失敗するに違いはない、と思いついて、自分や相手の失敗はかき目を向けるから失敗だと感じるので、自分の捉え方次第です。その「自分」が「自分」の為にミスをする。全ては自分の事、自分がそれそれぞれの思いを大切に受け止めるから受け止めることで、自分の視野が広がって生かす、楽しんで、リラックスして生きていくことが出来ます。

「素敵なことが待っている」の歌を聞きま

た。そして「自分」を見方を替えても変えられない真実がある。

- 1、人は一人で生まれて、一人で、この世を去る
- 2、その人生は一回限のしかない。
- 3、人の命の最後はいつ来るかわからない

だから「毎日、  
「自分は何をしたいの、どうなるんだろう、  
どんな一日だったか幸せ、  
今日が最後の日だったかどうして過したか、  
悪い、いやな出来事の中だけでも、だから「自分が  
「自分は何を」

を心に問いかけながら行動し、笑顔で過した方がいざいおもしろいかもしれませんか。

そのまじりに朝、思うだけで、時間を濃くなりました。いい加減に過ぎせぬいから思い出を大切にします。今を。1秒1秒を大切に生きます。

「むを乗り越えたりとかな自分になるたいう、嫌なことを嫌な事と捉えずに、どんな大変な事も楽しみに変えられます。ワクワクしていいのです。」

そうすると、悪い事の中に小さな良かったことを見出す力、エネルギーが付いてきます。人から必要とされている、好かれている感じがします。人も自分も嫌なことも好きになってきます。感謝の心が生まれます。その事で踏ん張る力、諦めない力、人間力が付いてきます。

そして、いい事がよってきます。結果、未来が開けるのです。未来が変わるのです。そして、あんなに大変だったと思っていた事が、いつの間にかできるものになっていきます。

半は自分の事として、自分がどうしたいかを決めて、生きる方が、その解決が早いよくなりがちです。相手は変わらませぬから、自分が変わる方が早いです。

私達は相手の事は自分の「親身」になってもその人にはなれない。その気持ちの100%なめることは難しいです。だから、自分の事に軸を換えて、どうしたいか決めるのが早いです。



例えは子どもたちだって、何かした時に「相手が同じようにされたら、相手のお友達はもう思つか考えたりいなむい、」はなかなか理解が難しいのです。相手の気持ちを察するのは難しいから。

「もう大好きなクマがかわれたらあなたはどう感じるの。」の方が分かります。

「自分がどう感じるの。」の方が分かります。そして過干渉、過期期待の言いつられた子どもは、自分の気持ちではなくお父さんとお母さんの気持ちを優先して生きてきたので、自分の気持ちに気づけないうです。自分の気持ちに気づいたら生きていけなかつたからです。気づいたら親の言う通りに生きていけない時もあるからです。

私も幼い頃、母に言われて「一番いやな言葉は」周りの人がどう思うの、人様に笑われるよ」でした。私が何を感じているか聞いてほしかったのです。いま振り返ってみると・・・今なら分かるのですが、幼い私には分かりませんでした。ただ人の目を気にするものになり、小さくなるばかりでした。

「頑張ってるね」素直になれない時は「私も苦しい言葉に変わりますね。それは『スーちゃんがんばりやむ』の絵本に書いてありますが、「頑張ってる」の連呼は「今、頑張ってるあなた、認めない、もっともいかならなむい」に聞こえるから。

そして、子どもは自分を大きくみせたい。そして本当は小さな自分を知りたい。余計に苦い言葉のよ。

だから、「このクマスくん、自分の思い通りに楽しんで来てね」がそうです。そして「もっと素敵にな

てが待っている」の歌のまじりに「頑張ってる」ではなく「頑張っているね」「頑張ってきたね」きつかったね。えらかったね」がそうです。

以前、「家族の○○○○の仲が悪くて困っています。どうしたらいいの？」とどう相談された時がありました。その時、私は「お母さん、」

「私の目の前にいない人の問題は私にはどうしてあげる事も出来ないのです。」

私の目の前にいるお母さんの事なら、何とかしてあげられるかもしれません。だから、その二人を見てお母さんがどう感じるか、まずはその気持ちが聞かせて下さい。」と聞きます。大切なのは、自分がどう感じているか、自分がどうしたいか、どう生きたいかです。そうすると、問題が明らかになっていきます。結果自分の心がすっきりして、相談された方は笑顔で帰って行かれます。

授かった命をどう生きていくか、私達には命を使い切るまで生きるといって使命があります。「使命」といかに命を使つかです。嫌々生きる人生も一生、楽しんで生きる人生も一生があります。どうせなら辛いことも、受け止めて一緒に楽しんでいきます。

続きは次です。

皆様に素敵な夏休みを過ごしてあげたい。

その心と時が園児たちがいつも「家族」として思い出に残るかがそのな時間になります。もう一度味わいたいのが出来たら、今年の夏を愛して我が子と共に満喫したいなを願っています。